

美術

内容の取扱いと指導上の留意点はどうなっているのか。
(鑑賞の題材、美術館等の活用、夢や目標と自己実現)

(2) 各学年の「**B鑑賞**」の題材については、**日本及び諸外国の児童生徒の作品、アジアの文化遺産**についても取り上げるとともに、**美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用**するようにすること。

○ 鑑賞の題材

生徒が日本及び諸外国の児童生徒の作品、アジアの文化遺産などを鑑賞し、人間の成長発達と表現の変容、国などの違いによる表現の相違などについて理解を広げることは重要である。

授業では、日本及び諸外国の多様な年齢層の人の作品を比較して鑑賞したり、日本の文化遺産などとの関連の深いアジアの文化遺産についても取り上げたりすることなどが考えられる。また、保存や修復の重要性、国際協力の側面なども合わせて学ばせるようにする。

○ 美術館等の活用

地域によって美術館・博物館などの施設や美術的な文化財の状況は異なるが、学校や地域の実態に応じて、実物の美術作品を鑑賞する機会が得られるようにしたり、作家や学芸員と連携したりして、可能な限り多様な鑑賞体験の場を設定するようにする。

学習の計画に当たっては、総合的な学習の時間や学校行事、地域に関係する行事などとの関連を図るなどの工夫も考えられる。

(3) 主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、**生徒が夢と目標をもち**、自分のよさを発見し喜びをもって**自己実現**を果たしていく態度の形成を図るようにすること。

○ 夢や目標と自己実現

創造は、まず夢や目標や課題をもつことから始まる。
思春期の生徒は、美へのあこがれ、社会や科学、神秘性などに興味をもち、自己の現在及び未来への願いや、生活や社会を改善していくための方策など積極的、建設的な夢を描けるようになる。また、理想と現実とのほさまに悩み自己嫌悪に陥ったり、不信感をもったりする時期でもある。

この時期に、表現を通して、自己の夢や目標を形、色、材料によって具体的な形、可視的なものに表現することで、自己の肯定的認識と未来へのあこがれ及びそれを基に自己挑戦し、自己実現を果たしていく意欲や態度を養うことが大切である。

特に、発想や構想から完成までの全過程にわたる表現の確認を通して、学習活動への自分の取組を見つめ、向上を目指して工夫し、自己のよさを確認していく主体的な態度を育てていくことは、自発性、自主性、ひいては、自己教育力等の育成を促す重要な契機となる。

それぞれの過程で一人一人の構想や表現のよさを多様な方法で評価し、励ますことによって主体的な表現への意欲を高めることも大切である。そして、それらの全過程を通して、生徒が自分の夢と目標をもてるように配慮する必要がある。